



第4章 地域歴史遺産を活用できる人材の育成

井上, 舞
河島, 真
木村, 修二
横山, 朋子

(Citation)

歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業, 15(平成28年度事業報告書):40-44

(Issue Date)

2017-03-17

(Resource Type)

report part

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81009777>



第4章

地域歴史遺産を活用できる人材の育成

地域歴史遺産の活用をはかるリーダー養成教育プログラム

人文学研究科地域連携センターでは、2004年度から2006年度まで、工学部建築学科などと協力しつつ、文部科学省の支援をうけ、「地域歴史遺産を活用できる地域リーダー」の育成を目的とする学生教育プログラムの開発に取り組んできた（文部科学省・現代的教育ニーズ取組支援プログラム）。この事業によって開発された教育プログラムが、2007年から文学部と大学院人文学研究科の正式科目として採用され、とくに人文学研究科では、「地域歴史遺産活用研究」「地域歴史遺産活用演習」（前期課程）と「地域歴史遺産活用企画演習」（後期課程）の3科目が、研究科内の「選択必須共通科目」として位置づけられることになった。地域連携センターでは、2007年度来、これら3つの科目の授業内容と素材を提供している。

3科目のうち、「地域歴史遺産活用研究」（学部講義名は地域歴史遺産保全活用基礎論A・B）は、地域歴史遺産の現状と課題を把握し、その活用のための基礎的知識と能力をつける入門講義である。また「地域歴史遺産活用演習」は、地域歴史遺産の分類・整理・解説・展示内容などの実践的方法を学び取る専門的演習である。さらに「地域歴史遺産活用企画演習」は、その活用のための企画展示等を自治体関係者や地域住民と一緒に企画考案するような実践的演習である。

専門コースの学生・院生は、この3つの講義・演習をすべて履修し、専門外コースの学生・院生はまず「地域歴史遺産活用演習」を取得し、自分自身の興味にしたがって「地域歴史遺産活用企画演習」を履修することが望ましいと指導された。以下、10年度目に入った各授業、演習の中身の概要について記す。なお3つの講義のうち、「地域歴史遺産保全活用基礎論A」は、博物館科目の「博物館資料論」としても開講された。

1. 地域歴史遺産活用研究（学部向けは「地域歴史遺産保全活用基礎論A」（前期／第1・2クォーター）・「地域歴史遺産保全活用基礎論B」（後期／第3・4クォーター）

〈前期第1部・第1Q〉地域歴史遺産論（1）資料論

いずれの授業も、神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター編『「地域歴史遺産」の可能性』（岩田書院、2013年）をテキストとし、以下の内容で実施した。

〈前期第1部・第1Q〉地域歴史遺産論（1）資料論

- ① 4/11 「序論：地域社会の未来のための地域歴史遺産」（奥村弘・人文学研究科教授）
- ② 4/18 「歴史系博物館資料論：博物館の現状と課題」（古市晃・人文学研究科准教授）
- ③ 4/25 「地域文献資料論」（木村修二・人文学研究科学術研究員）
- ④ 5/2 「現代資料論」（佐々木和子・地域連携推進室学術研究員）
- ⑤ 5/9 「災害資料論」（吉川圭太・人文学研究科特命講師）

⑥ 5/16 「地域歴史遺産の救出」(川内敦史・人文学研究科特命講師)

⑦ 5/23 「現代における地域社会の成り立ち—博物館を取り巻く政治社会状況—」(河島真・人文学研究科准教授)

⑧ 5/30 「まとめと試験」(市澤哲・人文学研究科教授)

〈前期第2部、第2Q〉地域歴史遺産論(2)活用論

⑨ 6/13 「地域歴史資料学とは何か」(市澤哲・人文学研究科教授)

⑩ 6/20 「自治体史編集事業と地域資料」(村井良介・人文学研究科特命講師)

⑪ 6/27 「文学資料と文学館」(井上勝博・芦屋市谷崎潤一郎記念館学芸員)

⑫ 7/4 「大学史資料と史料室」(野邑理栄子・神戸大学附属図書館大学文書史料室室長補佐)

⑬ 7/11 「地域文書館(史料館)論」(河野未央・尼崎市立地域研究史料館嘱託)

⑭ 7/25 「歴史遺産・歴史資料の活用と大学の果たす役割」(坂江渉・兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室研究コーディネーター)

⑮ 8/1 「地域歴史遺産とまちづくり」(前田結城・人文学研究科学術研究員、上田脩・丹波市棚原自治会PU事業推進委員会)

⑯ 8/8 「書き残すことの意味」(大槻守・香寺町史研究室主宰)

〈後期第I部・第3Q〉地域文化財論(1)兵庫県の文化財

① 10/7 「序論—地域の歴史遺産とその保全—」(奥村弘・人文学研究科教授)

② 10/14 「文化財とはなにか」(村上裕道・兵庫県教育委員会事務局参事兼文化財課長)

③ 10/21 「地域の文化財の発見」(黒田龍二・工学研究科教授)

④ 10/28 「兵庫県の地域の文化財—埋蔵文化財とはなにか—」(山下史朗・兵庫県教育委員会事務局文化財課副課長兼文化財班長)

⑤ 11/4 「兵庫県の地域の文化財—史跡・文化

的景観—」(岡崎正雄・元兵庫県立考古博物館事業部長)

⑥ 11/11 「兵庫県の地域の文化財—仏像を中心に—」(神戸佳文・兵庫県立歴史博物館館長補佐)

⑦ 11/18 「兵庫県の地域の文化財—近代化遺産を中心に—」(足立裕司・工学研究科名誉教授)

⑧ 12/2 「まとめと試験」河島真

〈後期第II部・第4Q〉地域文化財論(2)保存・活用論

⑨ 12/9 「景観復元とまちの形成—地図、地形環境と土地の履歴—」(菊地真・人文学研究科准教授)

⑩ 12/16 「遺産の保存をめぐる—農業と農耕文化を中心に—」(堀尾尚志・農学研究科名誉教授)

⑪ 12/27 「大規模自然災害と文化財救出、その効果について」(内田俊秀・京都造形芸術大学名誉教授)

⑫ 1/6 「地域歴史遺産の保全・継承と活用を考える—襖の下張り資料—」(尾立和則・前京都造形芸術大学教授)

⑬ 1/13 「歴史的建造物の保存・修復」(足立裕司・工学研究科名誉教授)

⑭ 1/20 「博物館運営と歴史遺産の活用」(山地秀俊・神戸大学経済経営研究所教授)

⑮ 1/27 「都市景観とまちづくり」(三輪康一・工学研究科教授)

⑯ 2/3 「障がい者にやさしい歴史遺産の活用」(高田哲・保健学研究科教授)

〈全体を通して〉

昨年度に引き続き、基礎論Aを「地域歴史遺産」のうち、主として文献資料にかんする講義とし、基礎論Bをそれ以外の「地域歴史遺産」、すなわち歴史的建築物、医術工芸埋蔵文化財、農業遺産、都市景観等に関わる講義として編成した。

Aの講義は市澤が、Bの講義は河島が統括した。また、毎回の講義には、原則として井上がコーディネーターとして参加し、講師と受講生のやりとりや質疑応答等を受け持った。これにより全体としての講義の趣旨やねらいがある程度伝わったと考えられる。受講生は学部・大学院を含めて、Aが約70名、Bが約15名で、文学部以外の学生・

大学院生の受講生も多かった。

(文責・井上舞)

2. 地域歴史遺産活用演習 (学部授業名は「地域歴史遺産活用演習 A」、大学院文学研究科は「地域歴史遺産活用演習」、人文学研究科は「地域歴史遺産活用企画演習」)

9月12日(月)から14日(水)まで、神戸大学大学院農学研究科・篠山フィールドステーションにおいて、地域歴史遺産保全活用演習 A (学部向け)、地域歴史遺産活用演習 (大学院博士前期向け) の授業を行った。これは、主に近世・近代の古文書の整理・読解を通じて、地域歴史遺産を基礎とするまちづくり、村おこしについて考える授業で、市民も参加して毎年実施しているものである。今年度は中西家文書の目録の点検を行うことを通して、特に目録作成の方法を身につけることに主眼を置いた。また、初学者に対しては古文書の取り扱い方、目録の取り方、また文書の読解についての基礎的な講座を並行して実施した。参加者は学生 35 人 (大学院生を含む)、教員 5 人、研究員等 2 人であった。

また、2月16日(金)と17日(土)には、三木市の旧玉置家住宅において、地域歴史遺産保全活用演習 B (学部向け)、地域歴史遺産活用演習 (大学院博士前期向け) の授業を行った。趣旨は9月の授業と同じである。今年度は三木市内の御坂神社文書の整理と目録作成を行った。また、初学者に対しては今回も、古文書の取り扱い方、目録の取り方、また文書の読解についての基礎的な講座を並行して実施した。参加者は学生 40 人 (大学院生を含む)、教員 5 人、研究員 1 人であった。

(文責・河島真)

地歴科教育論 D

「資質の高い教員養成推進プログラム」として採択され、2006～2007年度に実施した「地域文化を担う地歴科高校教員の養成」以来、現在まで継続してきている兵庫県立御影高校との連携事業を、今年度も引き続き実施した。センター関係教員が指導する「地歴科教育論 D」では、御影高校総合人文コースの課題学習を指導することを通じて、地域文化を担う社会科・地歴科教員の実践力を身に付ける授業を行った。今年度は「神戸弁」「神戸スイーツ」「ケミカルシューズ」「トライやるウィーク」「神戸電鉄」「フェニックス計画」「イノシシ」「神戸とインド人」「災害と外国人」「神戸空襲」の10のテーマ(10班)に分かれて研究を行い、このうちの「トライやるウィーク」と「災害と外国人」についての研究が、11月21日(土)開催に開催された関西学院大学総合政策学部主催のリサーチフェアに参加し、「災害と外国人」についての研究が奨励賞を受賞した。

また、受講生の中から、2月9日(火)には世界史2人、日本史2人が、御影高校2年生のクラスで実習を行い、同校教員の指導を受けた。世界史はキリスト教の成立とローマ帝国への広がりについての授業を、日本史は日中関係に焦点を当てて福原京＝日宋貿易と日中戦争に向けての軍拡をテーマとする授業を行った。

(文責・河島真)

特別研究「地域歴史遺産保全活用教育研究を基軸とした地域歴史文化育成支援拠点の整備」事業を定着・普及させる活動

2010～2012年度特別研究「地域歴史遺産保

全活用教育研究を基軸とした地域歴史文化育成支援拠点の整備」事業で開発した、地域歴史遺産を活用できる人材育成プログラムを、普及・定着を図り、2013年度より「まちづくり地域歴史遺産活用講座」とそのオプションプログラムである「古文書解読初級講座」を実施している。

1. まちづくり地域歴史遺産活用講座

2016年10月15日(土)・16日(日)、文学部公開講座として一般市民対象の「まちづくり地域歴史遺産活用講座」を開講した(主催:人文学研究科・同地域連携センター、共催:兵庫県教育委員会・COC+ひょうご神戸プラットフォーム協議会)。本講座は、歴史文化を地域づくりに活用し、次世代に残してゆくために、その担い手となる人材の育成が重要という考えのもと、年に2回、大学と地域とで開催してきたものである。10月開催の講座は、大学開催講座で、今回の受講者は11名であった。なお今年度の地域開催は都合により年度内開催が困難となり、平成29年4月ないし5月に朝来市において開催する予定であるが、昨年度事業報告書原稿の締切後の2016年3月13日(日)には姫路市香寺町で開催しているので、ここで今年度大学開催分と併せて、下にスケジュールを示しておく。

①大学開催

日程:2016年10月15日(土)・16日(日)
会場:神戸大学文学部B棟小ホール
主催:神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター
共催:兵庫県教育委員会、COC+ひょうご神戸プラットフォーム協議会
後援:神戸市教育委員会、神戸市灘区

スケジュール

10月15日(土)
10:00～10:10 開講挨拶・事務連絡
10:10～11:10 地域歴史遺産とまちづくり
(奥村弘)
11:20～12:20 地域歴史遺産活用事例の紹介

(井上舞)

13:20～13:30 参加者自己紹介
13:30～14:40 災害から地域資料を守る
(川内淳史)
14:50～15:50 歴史資料取り扱いの基礎Ⅰ
(村井良介)
16:00～17:00 歴史資料取り扱いの基礎Ⅱ
(木村修二)

10月18日(日)

10:00～11:00 地域の歴史の見方・近現代
(河島真)
11:10～12:10 地域の歴史の見方・古代
(古市晃)
13:10～14:10 地域の歴史の見方・中世
(村井良介)
14:20～15:20 地域の歴史の見方・近世
(木村修二)
15:20～15:50 アンケート記入
15:50～16:50 意見交換会
16:50～17:00 修了証授与・閉講挨拶

②地域開催(2015年度)

日程:2016年3月13日(日)

会場:県民交流会館(姫路市香寺町犬飼727-1)
主催:神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター

共催:香寺歴史研究会
後援:福崎町教育委員会
スケジュール

3月13日(日)

10:00～10:10 開講挨拶・事務連絡
10:10～11:10 地域歴史遺産とまちづくり
(奥村弘)
11:20～12:20 播但線の建設と地域の変貌
(大槻守)
13:10～13:20 参加者自己紹介
13:20～14:20 歴史資料取り扱いの基礎
(村井良介)
14:30～15:30 地域歴史遺産活用事例の紹介
(井上舞)

15:30～16:00 アンケート記入
16:00～16:50 意見交換会
16:50～17:00 修了証授与・閉講挨拶

(文責・木村修二)

2. 古文書解読初級講座

11月18日から29日の毎週火曜日、計4回の日程で神戸大学人文学研究科学生ホールにて開催した。これまでの「まちづくり地域歴史遺産活用講座」の受講生に案内し、22名の参加者があった。講師は河島裕子氏（神戸大学非常勤講師）が務め、「わかりやすい資料から読み進めて下さったので、とても興味深く読むことが出来た」「これを機に古文書に親しむことが出来れば良いなと思った」と好評であった。

(文責・横山朋子)